

生徒の「アルバイトがしたい」「高校に行きたい」の声に応じて

— 中学部 総合的な学習の時間「進路学習」 —

大阪精神医療センター分教室

1 はじめに

本分教室に在籍している生徒は、児童精神科に入院しており、治療を受けながら登校している。発達障がい、問題行動、不登校などの理由で入院しており、病院では基本的生活の習得・自立や体験と学びのサポートを受けている。分教室へは、一人ひとりの状態に合わせて登校しており、転入当初は学習に対する抵抗が強い生徒が多く、教員との信頼関係を築きながら安心感を得ることで、学習への取り組みへの気持ちが向いていくことが多い。

また同時に入院中は自分と向き合う期間になり、生徒それぞれが過去を振り返り将来を考えている。地域校に復帰をめざす生徒や分教室に在籍しながら高校進学をめざす生徒、目標がまだ定まっていない生徒など様々である。一方で生徒に「もし高校に行ったら何がしたい？」と問うと、多数の生徒が「アルバイトがしたい」とこたえた。「働きたい」「お金が欲しい」との声もあった。理由がありそれぞれの思いがある。そこで、中学部全学年を対象に総合的な学習の時間において進路学習を行った。本稿では、その取り組みについて報告する。

2 生徒の声に応えた進路学習

(1) 「アルバイトがしたい」の声に応じて

厚生労働省の「就労移行支援のためのチェックリスト」をもとに山梨障害者職業センターが作成した就労性準備ピラミッドを参考に生徒の様子を見ながら授業を組み立てた。

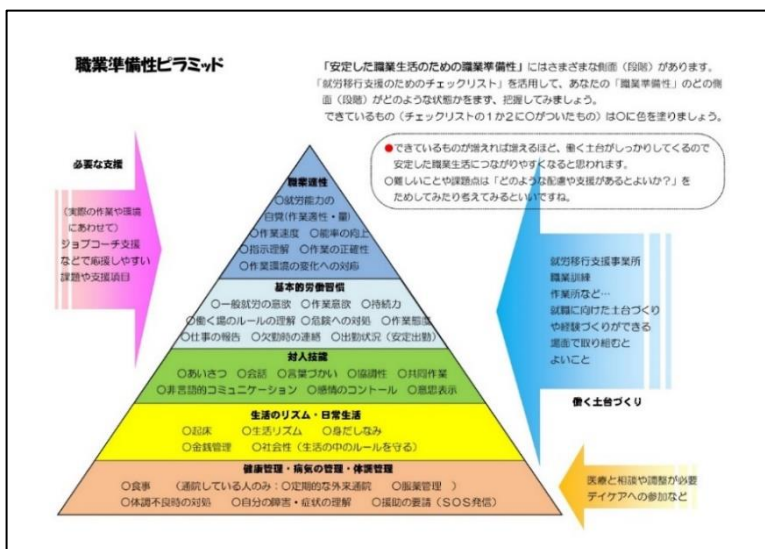
①職業適性

計 60 問の問いに答え、自分の職業適性がわかるチェックシートを用いた。その結果からどう思ったか、自分がなりたい職業・興味ある職業だったかななどの感想を書いた。

生徒たちは興味深そうに取り組んでいた。本人が思っていた職業にならなかったり、希望通りの職業になったりと結果は様々であった。しかし、結果として多くの職業を目にしたため、職種に対する視野が広がった。

②基本的労働習慣

働くときに必要な労働習慣を生徒が考える授業を行った。必要だと考えた理由を授業の最後に説明をしてもらい、補足を行った。この授業に関しては、普段のあいさつや登校にも着目しながら取り組んだ。



I 実践報告

朝遅刻せず出勤することや休む時に必ず連絡するという意見を出すことができていた。それ以外にも、分教室のルールを参考にして暴言など汚い言葉を使わないなどの意見を出すことができていた。

③対人技能

リクルートやタウンワークの動画でお辞儀や適切な言葉遣いを学んだ。また協調性を学ぶために、簡単な作業を行った。

3種類のお辞儀を学んで実践することができた。普段の授業開始時のあいさつでも意識できる内容であったため意識するように指導を行った。また言葉遣いについては、利用しているコンビニなどのお店をイメージしてどのような言葉遣いをされると気分がいいか、嫌な気持ちになるか意見を出すことができた。そのうえで正しい言葉遣いを練習し、今後の生活で言葉遣いに気を付けるように指導した。

④生活のリズム・日常生活、健康整理・病気の管理・体調管理

もともと生活リズムなどに課題がある生徒だが、改めて自分の生活と向き合う授業である。ただ、入院中に生活リズムなどを治そうと頑張っている生徒の中には、自立した生活を送れていない自分に直面して、しんどい気持ちになってしまう生徒がいる。そのため、事前に将来的に自立した生活を送ることを目標にするということを伝えている。また、大人になったときを想像して家計簿をつけ、その生活をするためにはどの程度年収が必要になってくるか計算を行った。

プリントに取り組みながら各自自分の生活を改めて見直すことができていた。また、簡単な家計簿をつけてみて、自分の理想となる生活はどの程度月収が必要なのか、現実的な生活はどの程度の支出なのか考えることができていた。

項目		金額	
実支出	消費支出	食料	
		住居	
		光熱・水道	
		家具・家事用品	
		被服・履物	
		交通・通信	
		教養娯楽	
		交際	
	税金・社会保険料		
預貯金			
その他			

自立した生活	
自分のことはどれくらい自分でできているだろうか？	
①朝、一人で起きることができる	はい・いいえ
②学校や友達などにあいさつできる	はい・いいえ
③自分の服は自分で準備や片付けができる	はい・いいえ
④約束の時間を守ることができる	はい・いいえ
⑤自分の部屋の掃除は自分でする	はい・いいえ
⑥手伝い(食事の準備など)をしている	はい・いいえ
⑦スマホやゲームなどの時間を自分で管理できる	はい・いいえ
⑧自分の気持ちをコントロールできる	はい・いいえ
⑨困った人がいたら声をかけることができる	はい・いいえ
⑩電車やお店などでマナーを守っている	はい・いいえ
⑪他人に気配りができる	はい・いいえ

(2)「高校に行きたい」の声に答えて

入院中であるため、進路のことをじっくり考える機会を設けるために二つの講演を実施した。

①みどり先輩

以前入院していた元生徒に講演をしてもらう授業である。今回は講演者の学業の関係上、

I 実践報告

夏休み中にインタビュー動画を撮影した。撮影した内容を9月に生徒たちに見せた。内容は入院理由・入院生活に関すること、分教室の学習に関すること、退院後のこと、高校生活に関すること、高校卒業後の進路に関する話を話していただいた。

教員からの視点ではない、同じ立場からの話であったため集中して聞くことができていた。入院中の人間関係の話や進路について、勉強の必要性など心に響くものがあったようだ。特に中学部3年生は進路選択が迫っている時期だったため、その後の登校や学習意欲に少し変化が見られた。

②山田先生による講演

12月18日に刀根山支援学校の運営協議委員である山田先生に来校していただき、高校進学の意味、高校の種類や入試制度、進学にあたっての心構えの観点から講演していただいた。生徒は真剣に話を聞き、山田先生に質問をする生徒もいた。生徒たちの中には、講演で聞いた進路先の中から自分に合う進路を考える生徒もいた。

3 生徒の変化

授業を受けた中学生は進路学習を真剣に受けることができていた。どの進路学習においても自分事ととらえて授業を受けることができており、生徒同士で意見交換をしたり感想をしっかりと書いたりすることができた。特に3年生は、その後の教科の授業においても意識の変化が見られた。授業のあいさつの時に椅子を入れる動作やお辞儀の角度、姿勢などを意識することができていた。授業中の態度も変化し、熱心に受けることができていた。

4 最後に

コロナ禍以前には、病棟主催の祭りにおいて飲食物の販売を職業体験として行っていた。今後再開されることがあれば参加を検討したい。

3学期には中学部3年生を対象に面接指導を行う。通信制高校では面接が必要なため、具体的な話す内容や姿勢や動作などを確認して模擬面接を行う。

社会経験が少なくコミュニケーションに苦手さを抱える生徒に、どのような進路指導をしていくべきか、授業を行うたびに悩んでいる。それでも、日々の分教室の授業や生活を見ながら、生徒の好奇心や適正、課題を見つけて必要な進路指導を模索したい。

生徒は分教室で確実に日々成長しているように感じる。地域校に戻る生徒、高校に進学していく生徒など様々な道に進んでいく。人生の転機となるかもしれない進路選択に、地域校との連携のもと、生徒一人ひとりの進路に合わせながら丁寧な指導を続けていきたい。